

産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年10月12日（水）午前9時0分
- 2 閉会日時 令和4年10月12日（水）午前10時5分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員
2番 鼻岡 美保君 7番 佐々木雄司君 11番 治徳 義明君
13番 金谷 文則君 16番 佐藤 武文君 18番 実盛 祥五君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
産業振興部長 是松 誠君 建設事業部長 高橋 渉君
農 林 課 長 矢部 勉君 商工観光課長 大崎 文裕君
地域整備推進室長 森本 祐司君 建 設 課 長 福圓 章浩君
上下水道課長 中務 浩行君 農林課参事兼
地域整備推進室参事 三田 義雄君
赤坂支所 石井 徹君 熊山支所
産業建設課長 砂子 武久君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 土井 常男君 副 参 事 野田 順子君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他

午前9時0分 開会

○委員長（金谷文則君） おはようございます。

ただいまから産業建設常任委員会を開会いたします。

岡田吉井支所産業建設課長が所用のため欠席との報告を受けております。また、佐々木委員は遅参という連絡が入っておりますので、お知らせをしておきます。

それでは、協議事項1番目、事業の進捗状況について産業振興部から説明をお願いいたします。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） それでは、産業振興部関係、農林課、商工観光課担当課長より説明を申し上げます。

○委員長（金谷文則君） お願いします。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） それでは、委員の皆様、お手元の産業振興部資料1ページを御覧ください。

1の事業の進捗状況についてでございます。

(1)でございますけれども、農業販売額が減少した農業者に対して交付するがんばろう赤磐コロナ対策農林業者支援金で、それから(2)は農業機械等の導入に対する収益向上補助金でございますけれども、これらにつきましては9月末日をもちまして受付を終了しております。

9月26日までに確定したものにつきましては、それぞれ86件と、それから46件となっております。ただいま9月27日以降に申請いただきました案件につきまして事務処理を行っております。最終の数字は来月に御報告させていただきます。

それから、(3)は四半期ごとに御報告させていただいております農林課所管事業でございますけれども、関係の資料は2ページに横向きに添付しております。4件ございますが、どの業務もおおむね計画どおりに進捗しております。

それから、1ページに戻っていただきたいと思います。

(4)就農等支援センター事業の一環として行います次世代農業技術集積センター整備事業に係る公募型プロポーザルについてでございます。

(4)の御説明に入ります前に、別にお配りしてる資料を見ながらになりますけれども、就農等支援センター事業の重要な部分として位置づけて進めてまいりました就農経営支援次世代先進農業の推進等を具体的に進めるための次世代農業技術集積センター整備事業、これに係ります公募型プロポーザルについて御説明させていただきたいと思いますけれども、その前にこの事業の基となる就農等支援センター事業のこれまでの経緯や現在の状況などについて確認させ

ていただきたいと思えます。

赤磐市では、市の農業を取り巻く厳しい状況を踏まえ農政の目指すべき方向性が明確になるよう、平成27年12月に策定した第2次赤磐市総合計画及び同年10月に策定しました赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略、平成28年に取りまとめた赤磐農業戦略におきまして経営感覚を持った農業者の育成、農産物の高付加価値化、ブランド化の推進、6次産業化、次世代農業の推進の3つを重点施策として進めてきております。

この3つの施策をより強力に進めるための組織として、議会、農業委員会など関係団体の御理解と御協力をいただきまして、平成29年3月、関係団体で協定を締結し、市役所農林課内に赤磐市就農等支援センターを設置、就農・営農相談、農地の集積などの農業者の支援業務を行っております。

その後、平成30年には、県農林水産総合センターの未利用地を譲り受け、就農研修や次世代農業の推進などに必要な施設整備の検討を重ねてまいりました。その間も、三徳園での研修センターの開設、周辺市町村の産地力増強など、本市の農業を取り巻く状況は急速に変化し続けております。

そのような状況変化に対応すべく、令和2年には市内農業者や消費者へのアンケート調査を実施、その結果を基に岡山大学をはじめとする有識者の方々の力をお借りしながら新たに赤磐市農業振興基本計画を策定するとともに、就農等支援センターの施設運営についての民間事業者への聞き取り調査を実施し、今後実施すべき施策と就農等支援センターに求められる役割と必要な組織や施設の概要をまとめました。

これまで当委員会で報告させていただいた資料の一部を抜粋しておりますものを別冊資料としてお手元にお配りしております。この資料も御覧いただきながらこの後の説明をさせていただきます。

それでは、委員会資料の3ページを御覧ください。

裏面の4ページも関連ページとなります。

公募型プロポーザル実施要項の主要な部分を抜粋しております。

まず、背景と目的でございますが、日本の農業や農家を取り巻く環境が急速に変化する中、赤磐市でも農家の高齢化や離農、耕作放棄地の増加、生産技術や優良農地の次世代への継承などの課題や問題を抱える一方、国内外での作目ごとの産地間競争、農業分野のICT技術等の活用によるスマート農業の研究開発、民間企業や福祉分野での農業参入など、新たな動きも広がっております。

こうした環境の変化と将来を見据え、岡山県より譲り受けた事業用地の有効活用を図るため、令和2年度に実施したサウンディング型市場調査を踏まえました赤磐市次世代農業技術集積センター整備事業に係る公募型プロポーザルを実施する計画にしております。

本プロポーザルは、事業用地の賃貸を条件とし、本市の農業振興に資する施設の整備、運営

を行う事業者を選定することを目的として実施します。

事業内容につきまして、事業名称は赤磐市次世代農業技術集積センター整備事業、事業用地は県から譲り受けた津崎地内の2筆、約2.2ヘクタール、整備する施設の内容及び条件でございますが、事業者は市から事業用地を有償で借り受け、農業振興施設を整備・所有し、管理・運営するものとします。

想定しております事業者が行う業務内容は、本施設の設計、建設業務、維持管理、運営業務、市と連携・協力して農業の振興に資する取組とします。

満たすべき条件につきましては、基本計画で定める強い農業の確立の実現につながる提案であることとし、就農・経営支援、農産品の高付加価値化・ブランド化の推進、6次産業化・次世代農業の推進、農地・農村環境の保全を条件としております。

土地の貸付条件としましては、事業用定期借地権の設定契約によるものとして、貸付期間は20年程度を見込んでおります。

事業者の選定の方法ですが、本事業は赤磐市農業振興基本計画に基づき市の農業振興に資する提案施設を整備・管理運営するものです。事業者の募集及び選定方法は、民間事業者の有する能力・ノウハウを総合的に評価して選定するため公募型プロポーザル方式によるものとし、最も優れた提案を行った応募者を本事業の優先交渉権者として選定します。

主なスケジュールにつきましては、御覧のとおりでございます。

本年度内には、優先交渉権者の決定ができるように進めてまいりたいと考えております。

農林課からの御報告は以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 続いて、お願いします。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、事業の進捗につきまして、商工観光課から御説明いたします。

産業振興部資料5ページのほうをお願いいたします。

(1) がんばろう赤磐コロナ対策飲食店感染防止奨励金につきましては、令和3年度からの継続事業でございます。10月3日現在、累計で交付決定件数48件、交付決定額は960万円でございます。9月中にも事業者さんを訪問させていただきましたが、まだ申請いただけていないような状況でございます。

続きまして、(2)熊山英国庭園オータムフェスタ2022につきましては、10月30日に3年ぶりの開催となります。

内容につきましては、地域の方々が中心となって熊山英国庭園のPRを図るもので、白陵中学・高校生のコーラス、子供のダンスなどのステージ発表、体験・展示コーナー等が出展する予定でございます。

7ページ、8ページにチラシを添付させていただいております。後ほど御確認いただけたらと思います。

5ページに戻っていただきまして、(3)是里ワインフェストにつきましては、令和4年11月3日におかやまフォレストパークドイツの森で是里ワインや地域特産物の振興と観光事業の活性化を図ることを目的として是里ワインフェストを開催する予定です。

なお、例年多くの来賓の方に御案内、御来場いただいて開会式を行っておりますが、本年度につきましても新型コロナウイルス感染予防のため予定をしておりません。

チラシにつきましては現在制作中でありまして、1週間前の10月27日の朝刊、新聞折り込みを予定をいたしております。

続きまして、(4)あかいわe c o・いいものまるしえ×消防フェス！への参加につきましては、8月の常任委員会で御報告いたしましたので御報告させていただきます。

防災意識とエコ意識の向上、赤磐市のいいもの、おいしいものを手に取ってもらい、参加者、出店者がつながることで赤磐市の魅力を再発見し、多くの市民の方にまちづくりに参加してもらうことを目的に、救助訓練、フリーマーケット、ワークショップなどを実施する予定です。

チラシを9ページ、10ページに添付させていただいております。後ほど御確認いただけたらと思います。

各イベントにつきましては、委員の皆様、御都合がよければぜひお立ち寄りいただけたらと思います。

5ページ戻っていただきまして、(5)商工観光課所管事業につきましては、資料の一番最後11ページに、事業費1件250万円以上を一覧表にしておりますので御覧ください。

上段、がんばろうコロナ対策観光・飲食支援事業につきましては、10月1日から第2期のスタンプラリーを開催中でありまして、第1期につきましては、速報値ではございますが、延べ約3,200の方が参加いただいております。

中段、吉井城山公園大型堅穴遺構屋根改修工事につきましては、8月4日付で大守建設さんと契約締結をしております。

下段の赤磐市サイクリングルートPR事業につきましても、10月1日から12月末までの3か月間でスタンプラリーを開催中でありまして、

商工観光課からは以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

どうしますかね、建設事業部のほうも説明させてよろしいか、皆さん。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） じゃあ、すいませんが、もう建設事業部のほうの説明もお願いいた

します。

それから、後でまとめて質疑のほうをしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） それでは、建設事業部の事業進捗につきまして担当課長より説明申し上げます。

○委員長（金谷文則君） お願いします。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） それでは、1、事業の進捗について建設課から説明させていただきます。

建設事業部資料をお開きください。

1 ページには、令和3年度から令和4年度に繰越した主要事業を記載しております。他事業または他工事との工程調整による3件、国の大型補正により3月補正予算で計上した1件が未完了となっておりますが、そのうち3件は発注済みであり、現在早期完成に向けて工事を進めております。残る1件につきましては、道路新設改良費の3番となりますが、これは舗装工事でありまして、改良工事の進捗に併せて発注する予定としております。

続きまして、2ページから4ページに令和4年度における250万円以上の主要事業を記載しております。できる限り上半期発注を目指して事務のほうを進めてまいりましたが、設計の照査、関係機関との協議などによりまして少し遅れが生じた工事もありますが、10月中には多くの工事で業者決定ができる予定となっており、入札予定日を記載しております。

また、入札予定日を記載していない工事におきましても、設計はおおむね完了しており、現在発注に向けての準備を進めております。

以上で建設課の説明を終わります。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、続いてお願いします。

○上下水道課長（中務浩行君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 中務上下水道課長。

○上下水道課長（中務浩行君） それでは続きまして、上下水道課から事業の進捗状況についての御説明をいたします。

建設事業部資料の5ページをお開きください。

こちらが令和3年度から令和4年度に繰越しました上下水道課の主要事業でございます。上段が水道事業、中段からが下水道事業となっております。

この繰越事業につきましては、既に完成したものも含めまして順次工事を進捗しております。それぞれ完成に向け工事、業務を進めておるところでございます。

続いて、6ページをお開きください。

こちらは、令和4年度の主要事業一覧でございます。先ほどと同様、上段が水道事業、中段から下が下水道事業でございます。

水道、下水道とも順次発注を行っておりまして、10月1日現在の進捗率につきましてはこの表のとおりでございますが、未発注の案件につきましても設計中、また設計が終わり入札を待っている状況となっております。

以上で上下水道課の事業進捗状況について説明を終わります。

○委員長（金谷文則君） では、続いてお願いします。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 続きまして、地域整備推進室の事業の進捗について説明をさせていただきます。

(1)事業の進捗状況にある報告についてですが、建設事業部資料の1ページを御覧ください。令和3年度からの繰越事業になります。

一覧表の一番下の番号2の1件が地域整備推進室の業務でございます。完成に向けて業務を進めております。

次に、資料の4ページを御覧ください。

令和4年度の主要事業になりますが、上段の表の番号3の赤磐市新拠点土地利用計画検討業務につきまして、公募型プロポーザル方式により発注し、株式会社エイト日本技術開発中国支社を受託候補者として選定しました。現在契約手続を進めております。

続きまして、(2)子育て・新婚世代向けの地域優良賃貸住宅の事業者募集についてです。

建設事業部資料の7ページ、8ページを御覧ください。

前回の委員会で説明をさせていただきました山陽6丁目の子育て・新婚世代向け賃貸住宅の整備ですが、令和4年9月28日付で公募型プロポーザル方式による事業実施の公告を行い事業者の募集を開始しましたので、御報告をさせていただきます。

資料につきましては、民間事業者の方へのPRチラシでございますので、御覧いただけたらと思います。

地域整備推進室からは以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

取りあえずそんなところですかね。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） はい、何でしょう。

○委員（佐々木雄司君） 佐々木でございます。遅参いたしまして申し訳ありませんでした。失礼いたしました。

○委員長（金谷文則君） それでは、執行部のほうの説明が終わりました。

委員の皆様の方から質疑ございましたらお願いをいたします。

まず、先に産業振興部のほうからお願いをいたします。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私のほうから、先ほど説明がありました赤磐市次世代農業技術集積センター整備事業に係る公募型プロポーザル実施要項についてちょっとお聞きしたいことがあるんです。

といいますのが、大変こういうふうな計画を我々委員会の方に提案をしていただいて、さもこの計画は大変すばらしい計画であるような説明を今いただきました。その中で、過去の経過からずっと推移した中でいろいろこの委員会の中でも整理して検討しなければならないことが私はたくさん残されている中でこういう計画が出てきたんじゃないかなあというふうに思っております。

それは何かといいますと、先般私が9月議会の一般質問をした中で、就農支援センターの関係について休止すべきではないかということを経理のほうに提案したところ、市長におかれては、地域農業の基盤を盤石にするため農業支援センターの組織の設立は必要不可欠であるというふうに答弁をされておるんです。要するに就農支援センターは赤磐市の農業組織の中に必要不可欠であるというふうな答弁をされた中で、また新たにこういうふうな計画が出てきたということに対して、市長の答弁と今回提案されておられることについて、その辺の考え方の整理をしていただかなければならないんじゃないかなあとは思うんですけど、その辺のことについての御見解はいかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） ただいま佐藤委員から御質問いただいた件でございますけれども、おっしゃるように、赤磐市の就農等支援センター、これにつきましては既にソフトの部分が赤磐の市役所の中で立ち上がっております。先ほどの御説明でも申しましたように、農業者担い手の支援とか、そういったものを主体で、ソフト事業、これを主体にさせていただいております。

そして、ただいま申しました次世代農業技術集積センター、これにつきましてはこの就農等支援センターの事業の一環として今度は主にハードの部門の整備なんですけれども、これで事業を実施していきたいということで考えております。

いろいろ今まで桃の団地やぶどうの団地もいろいろ手がけていきたいと申しまして今着手しておりますけれども、全部就農等支援センターの事業の一環で手広くやっているものでござい

ますから、全部が結局は担い手のことにつながっていくということでございます。全部農業振興のためにやっている事業でございまして、名称等もいろいろ転じて混乱もさせるかも分かりませんが、そういうところで一貫した事業であるということを御認識ください。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 今課長のほうから説明があったことについては分からないことはないんです。しかしながら、就農支援センターというのは、県の譲渡した土地を利用してそういうふうな施設を、就農支援センターという施設を継続するというふうな大きな目的、そしてまたその中に農業を取り巻くいろいろな課題についてその中に取り込んでやろうという計画があって、今言われたような、今の説明の中に、その範疇にあるかもしれないんですけど、県の未利用地の土地を要するに有効活用してそういうふうな支援センターを計画をしようということの中で我々は議論してきたつもりなんで、大きなそういうふうな農業を取り巻く課題についての中に支援センターというものを、その今言う計画をするというような計画じゃなしと、要するに支援センターというのは県の未利用地の土地を活用するという、私は目的があったように思っておるんですけど、そういうふうな大きないろいろな農業を取り巻く課題について支援センターをその中に取り組んで計画をしておるといような、私は感覚は持っていなかったんですけど、いつそういうふうな計画は変わったのか、その辺が我々、私には理解ができないんです。要するに支援センターは、県の未利用地を活用した施設というふうな見解、見解というか、考え方があったということなんですけど、今言われたように大きな課題の中に、農業を取り巻く中にその支援センターという計画があったというふうな感覚では私はなかったと思うんですけど。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） ただいま御質問いただきました件でございます。

支援センターというのは、今私が申しましたのはかなり広いことでございますけれども、県の未利用地の利用、これは以前からぶれておりません。例えばこの中に試験圃場を造るとか、いろいろそういう関連のものをつくりたい、それから事務所やそういう研修施設を構えたいというのは考えとして全然ぶれておりません。

ですが、いろいろちょっと時間がたちます。その間にいろいろ整理していくうちに、やっぱり赤磐市ではその作目がかなり多いです。水稻のように盛んにやっておられれば果樹もやっておられます。野菜も一生懸命やられてる。そういった中で正式にやはりそういうものを植えて栽培して研修もしていかなければならないということがだんだん分かってまいりました。そんな中で、もちろんこれから県に譲り受けた未利用地、これを活用したそういう施設も備えてい

きたいということで整理はしております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いろいろ課題がいろいろな方向へ、私が考えておる考え方とはちょっと変わった方向に向かっているのではないかなあというふうに思うんですけど、要するに農業を取り巻く様々な課題が山積をしている中で、いろいろな課題が大至急解決しなければならない問題等が農家の方々から私に対してもたくさん求められております。その中で、待たなしで取り組まなければならない課題がたくさんある中で解決に至らないことがたくさんあると思うんです。

そういうことから、今回のこの計画は岡山県から譲渡した土地を早急に有効に活用しようというような計画が含まれておるように思うんですけど、その中で先ほど言ったいろいろな課題がたくさんある中で、その課題が先が見えないような状況の中でまた今回新しい計画をされることが非常にまた大きな問題が先々出てくるのではないかなあというふうに思いますんで、もう少しこのことについては委員会の中で勉強会でも開いてやられたほうがいいのではないかなあという、私はそういう感じがするんですけど、委員長、いかがでしょうかね。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、ちょっと委員長の発言をさせてください。

今佐藤委員のほうからも言われたように、ちょっと最初のところから随分、ちょっとじゃないな、随分何かずれてきて時間もかかり過ぎてて、よく整理しなきゃいけないんで、今までの会議の資料は出してくださいでしたが、本来はいろんな農協さんとの問題があって、うちの議員との問題もいろいろなことが取り沙汰されている中で、じゃあどうするんかという、大変大きな市民を巻き込んだ問題だったということは皆さん御理解をいただいております、御認識いただいことだろうと思うんです。だから、そこら辺もよく踏まえて計画をしなきゃいけない。

それと、今佐藤委員言われたように、これうちの委員会の中で、例えば今急に民間という話がすごくクローズアップしてきてるんですけど、民間の事業者がどういうことをやる事業者があって、赤磐市の担当課の中でどういう事業者があってどういうことができる、こういうのがたくさん要るから民間のほうでこういうプロポーザルをして手を挙げていただいているところにお任せをするんだというような検討をしたとか、この委員会の中にそういう話、ものがあるんだという説明をされておってこういうふうな今の計画を募るというのにかじを取られるのはいいと思うんですけど、全く分からないまま急に朝起きたら天井から物が落ちてきたみたいな形でこのプロポーザルでやりますと言われると、やはり我々委員会としてはちょっと納得がいかないんじゃないかなあというふうに思います。

これをすぐやるということは、あまりにも性急過ぎるかなあ。もう少し委員会の中で勉強して、理解をして、なるほど民間がどういうことをやれるんだと、だから赤磐市の農業に必要な

なんだ、そうだ、そうしたらもっと広く公募をして赤磐の農業のために、将来のために役立てられることをやりましょうと、これなら市民も、それから我々委員会、議会のほうも納得がいくと思います。そのことをやらない限り、ちょっとこれは難しいんじゃないかなあとと思いますが、勉強会をするべきだと思っておりますが、私の意見としてはです。

また、そのことについて、それぞれ委員の方、御意見がありましたら、一応私はそのように考えております。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 今の委員長のお話に関係するんですが、別添資料をいただいております、別冊資料の中の今年の1月21日の資料の中に、先進事例ということで公社の御説明をいただいたと思います。この資料も拝見して御説明をいただいた記憶のほうが残っているんですけども、これを土台というか、ここをスタートとしていろいろ研究をされた結果、この次世代農業技術集積センター整備というようなところのプロポーザルをしていろいろな事業者さんのほうからすばらしい企画を御提案いただいて、役所のほうでは気づかない民間企業ならではのアイデアというようなところを赤磐市としてはいただいてそれを形にしていきたいという、こういう御説明でよろしいんですかね。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員、よろしいか、もうそれで。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（金谷文則君） 答弁されますか。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） ただいま佐々木委員がおっしゃったようなイメージでおります。

ですけれども、あと圃場の整備とかも絡んでまいりますから、その辺はまた別の組織もありかなあといろいろな考え方で選択肢があると思います。ですが、民間の活力を利用させていただきたいということは、今おっしゃったような御説明になります。

それから、すいません、ちょっと今の御説明に付加して、令和3年1月21日の分の資料に付箋をつけさせていただいているんですけども、このときに就農等支援センター事業、市場意向調査の業務を行いました。これはいわゆるよく世間で言うサウンディング調査です。100社を超えます民間の企業さんにいろいろアンケート等をさせていただいて、ここでできる事業とかというのをいろいろ調査しました。それで、反応が幾らかいただけたんですけども、そういったところも踏まえて今回のこの考え方に至っているものでございます。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員、私に対しての答えというのはないんだね。私が言ったことについての答えというのはしないんだね。

はい、佐々木委員、どうぞ。

○委員（佐々木雄司君）　じゃあ、いいです、譲ります。私がちょっと割って入ったような形になって、申し訳ございませんでした。

○委員長（金谷文則君）　いや、よろしいよ、続けてください。

○委員（佐々木雄司君）　どうぞ。

○委員長（金谷文則君）　いやいや、佐々木委員のやつ、続けてやってもらって、またその後でいいから、もし答えるつもりがあるんなら答えりゃいいし。

どうぞ、佐々木委員。

私が委員長です。

○委員（佐々木雄司君）　そうですか。分かりました。じゃあ、すいません、お言葉に甘えまして。

つまり今回出てきておりますプロポーザルの実施要項というのは、今まで事業を積み業務を積み重ねてきてくださったこの積み上げの結果という形で理解しておいてよろしいんですか。

○委員長（金谷文則君）　答弁を求めます。

○農林課長（矢部 勉君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君）　ただいまの佐々木委員の御質問ですけれども、それで結構でございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君）　よろしいか。

○委員（佐々木雄司君）　ありがとうございました。

○産業振興部長（是松 誠君）　委員長。

○委員長（金谷文則君）　是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君）　その前に、委員長のほうから御質問ありました勉強会の件につきまして答弁させていただきます。

我々執行部のほうも、勉強会、非常にそれは有効なものだというふうに考えております。ぜひ委員会の皆さんと一緒に就農支援センターについて考えていきたいというふうに考えておりますので、進めていただけたらというふうに思います。

それから、このプロポーザルは、民間の活力を活用するということで、あくまで就農等支援センターの本来の計画の中の一つとして民間の活力を活用するということで進めたいと思っております。このプロポーザルでは、民間の事業者さんの意向をお聞きしまして、赤磐市と手をつないで事業が進められるかどうか、その進められる事業者さんを、優先的にお話をさせていただき事業者さんを応募がありましたら決めていこうというプロポーザルでございますので、このプロポーザルで全てが決まってしまうということではございません。

そういう中、そこも含めまして勉強会を重ねながら進めていかせていただけたらなというふうに考えております。よろしくお願いします。

○委員長（金谷文則君） 副委員長、私発言させてもらっていいですか。

〔委員長交代〕

○副委員長（治徳義明君） どうぞ。

○委員長（金谷文則君） すいません。

よく聞いていただきたい。その勉強会は当然やらないと、みんなが理解をしてやらなきゃいけない。それから、民間活用とかそういうことについて、多分どなたも異論を挟んでないんです。納得がいけばそれはそういう方向で物は進めていきゃいいと。

だけど、このサウンディング調査をしました、100社もありました、その中から幾らかありましたっていうような話であって、赤磐の農業に対して農業をこれから産業振興していく中でどういうふうなものが必要だから、それに合うようなものが世の中にあるからこういうなのをもっともっと広く公募をして頼むんだと。だから、ここでどんなことができるのかという説明なんかもないのに、急にどっか公募しますっていつもやるんだけど、公募をしました、何社しかありませんでした、その中から1社だったからこれにしましたとかっていうのが今までのパターンで、そういうことを繰り返していただきたくない。これは赤磐の産業振興の中で大変重要なことです。それも、こんなに長くものが延びてきて、簡単に今のプロポーザル、民間のあれに投げかけました、出てきたことはこれでしたって、そんな簡単なような産業振興じゃないと思います、農業というのは。

だから、きちっと説明ができて、どんなものがあるか、じゃあ説明をしてください、まず、ここで。どういうふうに活用するのが今の赤磐市の、本当言えば、執行部はこういうふうやっていきたいんだと、それに合うようなものがあるんだという説明をしていただかないと、私自身としては納得がいかないし、多分市民の方も納得がいかないんじゃないかなあと思います。

何があって、何がこの赤磐市に合ってるのということを勉強して、それでみんなで協議、なるほどなあ、必要だなあ、やらなきゃいけない、早急にやりましょうっていうことでこれをやられればいい、当然やっていけばいいと思いますけど。その前に今回の一番最初のうったてがあったときにトラブルがあったいんな、業者という言い方しかできませんけど、事業者、企業、そういうところとのしがらみについてきちっと払拭したものでオープンにさせていただくと、これがもうこの事業の一番必要なことだと、委員長というか、一議員として、一委員として私は思ってますので、きちんと公明正大に赤磐の産業振興、農業の振興のために資するというのが胸を張ってできるようにしていただかないと、我々の委員会ではないと思いますので、そのことをお願いをして勉強会なりでやっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○副委員長（治徳義明君） いいですか。

[委員長交代]

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、お答えだけお願いします。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長おっしゃるとおりだというふうに認識しております。ぜひその勉強会を開催させていただいて、その中で今委員長が御指摘あった部分、しっかりと説明をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

他にいかがでございましょうか。

佐藤委員、よろしいですか、そういう話で。

○委員（佐藤武文君） はい。

ちょっとほんなら。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほどから委員長、執行部のほうからいろいろなお話があったんですけど、要するに委員会の中でよく説明責任を果たしていただいて前に前に進めていただきたいと。一方的に、こういうような計画をしたのでこのことについて進めさせていただきたいというんではなしと、よく委員会の中に説明して、委員会の中で理解を得て前に進めていただくことをお願いをして、勉強会をぜひしていただくように再度お願いをさせていただきたいというふうに思います。

以上です。答弁よろしい。

○委員長（金谷文則君） ということでございますので、御理解をお願いしたいと思います。

このことについてはもうよろしいでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（金谷文則君） 他についての質疑ございましたらお願いいたします。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 先ほどの説明の中でまちづくりの説明会の質疑応答について資料をここに添付していただいとんですけど、この中で非常にお叱りの電話、お叱りを直接私の家に言ってこられた人も実はおられるんです。要するに今回この説明会をされて、これから後どういうふうにされるかということについての説明を若干していただきたいと思いますが、よろしくをお願いします。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長、これ次のその他のほうでこれから御説明させていただく予定に。

○委員（佐藤武文君） そうですか、すみません。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、佐藤委員、それならその他のほうで。

○建設事業部長（高橋 渉君） 今のことも含めて。

○委員（佐藤武文君） 分かりました。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、それをお願いします。

他にございませんでしょうか。

進捗状況を含めて、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） じゃあ、ないようでございますので、協議事項の1項目は終了したいと思います。

続きまして、協議事項2番目、その他に入ります。

その他について執行部のほうから説明がございましたらお願いをいたします。

○農林課長（矢部 勉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 矢部農林課長。

○農林課長（矢部 勉君） それでは、産業振興部の資料1ページを御覧ください。1ページの下のほうでございます。

2のその他でございます。

狩猟期間についてですが、例年と同様に11月15日から翌年2月15日までとなっております。イノシシとニホンジカにつきましては、3月15日までとなっております。

それから、資料にはございませんけれども、先般国から内示がありました国の交付金を活用した農業者支援となる事業につきまして、現在計画中のものを御報告いたします。

1つは、がんばろう赤磐コロナ対策農林業者支援金の第4弾として農業肥料、資材、畜産飼料など、価格高騰の影響を受けている市内農畜産業者に対して負担軽減を図るための支援金を交付するものでございます。

それから次に、一昨年に実施しました農業経営収入保険加入支援事業の第2弾となります、コロナ感染症の影響など農業者の経営努力では避けられない様々なリスクによる収入減少に備えるため農業経営収入保険に加入する農業者に対して、その保険料の一部を補助するものでございます。

以上2件、具体的に制度設計が進みましたら当委員会に御報告させていただきます。

農林課は以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 続いてありますか。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、その他について商工観光課から御説明いたします。

産業振興部資料6ページのほうをお願いいたします。

(1)のJ R大阪駅構内施設での観光物産イベントにつきましては、県主催で産業や観光資源等を通じた活力のある地域づくりを推進することを目的に、J R西日本と連携しまして観光PR及び地域特産品販売を行うものでございます。

備前県民局管内の7市町が参加するものでございます。赤磐市では、シャインマスカット、それからお酒などの販売を予定しております。

商工観光課からは以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

じゃあ、続いて行きましょうね。

建設事業部のほうございましたら、お願いします。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 地域整備推進室からその他について説明をさせていただきます。

まず、(1)赤磐市の新たなまちづくりの説明会の開催結果についてでございます。

建設事業部資料の9ページから10ページを御覧ください。

説明会の参加者数は、9月9日と11日の両日で126名でしたが、30代から40代前後の比較的若い方の御参加もいただきました。

開催日ごと及び地域ごとの参加者数は、資料のとおりでございます。

また、質疑応答につきましては、新型コロナウイルス感染防止の観点から時間を制限しての開催ではありましたが、資料のとおり、御意見や御質問をいただきました。

特に公共交通の充実を求める御意見が多く、そのほかでは今後のスケジュールや都市計画区域以外はどうなるのか、浸水への対策はといった御質問をいただきましたが、この説明会においては大きな反対の御意見はございませんでした。

内容の詳細につきましては、また御覧いただければと思います。

次に、(2)新拠点整備に係る河本、岩田地区地元説明会の開催についてでございます。

資料は、11ページを御覧ください。

前回の委員会で御案内をいたしました。新拠点に位置づけていく河本、岩田地区の地権者及び耕作者の方を対象にした説明会を、河本地区で10月28日金曜日、岩田地区で10月30日曜日に開催する予定にしています。

現在立地適正化計画の策定や都市計画の変更の議論を進めていく中で、あくまで現時点のイメージにはなりますが、新拠点の導入を資料のような配置で検討しています。

図面の上側がマルナカより少し南に位置しますが、その辺りから生活利便ゾーン、真ん中辺りが公共ゾーン、ここに道の駅や交通結節点を配置できたらと考えています。その下辺りが産

業振興・にぎわいゾーンといったイメージになります。

今回予定している河本、岩田地区の説明会は、この3つのエリアの方を対象に実施し、新拠点の整備に対する御意向などをお伺いしたいと考えています。

先ほど御質問を佐藤委員のほうからいただきましたけれども、今回の説明会で地元の方の御意向をお伺いしまして、それを踏まえて引き続き立地適正化計画の策定を進めていきます。この立地適正化計画の素案ができましたら、その素案を基にパブリックコメントを行いまして、広く市民の方から御意見をお伺いをしていくことになります。その御意見を踏まえまして、反映させたもので立地適正化計画を策定して公表をしていくことになります。その公表後に、国、県との農政局との調整や都市計画の調整を行いまして、それが調いましたら都市計画の変更の法手続のほうに入っていきます。それが終わりましたら実際の新拠点の整備へと進んでいくというような流れになっています。

地域整備推進室からは以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

その他は、執行部、そういうことですね。

執行部のほうからその他についてございました。そのことについて質問、質疑等ございましたらお願いをいたします。

佐藤委員、もう一度お願いいたします。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） ありがとうございます。

新たなまちづくりの説明会の関係について、先ほど詳細な説明をいただいたんですけど、この計画づくりを作成するに当たって、私はいろんな意見がいろいろなところから、恐らく議員の皆様方の耳元にも入っておるのではないかなあというふうに思うんです。

そういうことの中で、この計画を進めるに当たって、私前から申し上げておるように、この計画については総合政策部が担当してやっていただくのが一番いいんじゃないかなあ。要するに総合政策部が担当することによって議員の皆さん全員の方がこのことについて入って議論ができるというようなことの中で、我々産業建設の委員会の中に持ち込まれて我々の委員会の中で議論するのが私はいいか悪いかといったら、あまりよくないのではないかなあ。要するに議員全員でこのことについては取り組んでやったほうがいいんじゃないかなあという考え方を持っておるんですけど、そのことについてはいかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 佐藤委員の御質問といいますが、御意見なんですが、実際にこの立地適正化計画についても大分煮詰まっております。あと、今後のスケジュールで言い

ますと、次回の協議会を11月9日に予定しております、その次でできたら先ほどの素案って
いうところまで行きたいなあと考えてます。

次回の11月9日の協議会の時点で、今回の立地適正化計画の全体像、おおむね全体の姿を出
していこうというふうに思っております。それで、その中では委員御指摘のように、総合政策
部が持っている公共交通であるとか、子育てであるとか、かなり幅広いところに今回は踏み込ん
でいくようなものを次の協議会では予定しております。

したがいまして、ちょうど9日の後にまた産建委員会ございますので、そこで次回の協議会
のものをまた御説明をさせていただきまして、それを見ていただいて、やはり幅広だなとい
うことで全体でということであれば、それはもう事務局としては、おっしゃられるとおり、幅広
い内容を提示する予定ですので、そこで判断していただけたらどうかなあというふうには考え
ております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 今部長のほうからお答えになりましたように、佐藤委員がずっとお
っしゃっておられるように、産建だけの所管で済むような問題じゃあないというのは多くの議
員が認識をしておりますので、11月9日の協議会があつて、そこでどういうことがされて、
個々の委員会の所管のものも出てくるというのが具体的に分かれば、これはやっぱり議長のほ
うにお願いをしてみんなでやれるような方向にしていかないと片手落ちになってしまうんじや
ないかなあというふうに思いますので、ぜひそういうことを頭の中に入れて物を進めていただ
きたいなと思うんですが、佐藤委員、9日以降、説明をうちの委員会で受けてそれからとい
うことでもよろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） はい。

○委員長（金谷文則君） じゃあ、高橋部長、そのような形で進めさせていただきたいと思
いますので、よろしくをお願いします。

議長のほうもそこでもし出ましたらよろしくお願ひいたします。

じゃあ、続いてお願ひいたします。

ほかに。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 商工観光ですけども、6ページ、また繁華街といいますか、人の多
いところに出かけていっていただきまして赤磐市の魅力の発信を頑張っていただけというこ
との御報告なんですけども、ここの中で地域特産品というのがあるんですが、これ先ほど具
体的にシャインマスカットであるとかお酒であるとかということをおっしゃられたんで、そのほ
か何がありますかね。

○委員長（金谷文則君） 答弁願ひます。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 今回のこの件につきましては、岡山県さんが主催でございます。7市町が出展するというようなところでございますので、商品数もいろいろ限られております。赤磐市につきましては、シャインマスカットと日本酒というようなことになっております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 私が東京などにお仕事で出張するような場合、手土産を訪問先に持っていったりするんですけども、そのときにいつも困るのが、赤磐の特産品というのがないので、結果、岡山県の特産品みたいなものを持っていかざるを得ないというところがあるんですけども、そういったような現状は皆様方も私が感じている以上にお持ちなんだと思うんですが、そういうものが不足している中でこの地域特産品という言葉が使われてこういう事業展開される、このことについての特産品の開発みたいなところについて、どのような御意見持っていच्छやるんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 特産品というのが、赤磐市で申しますと青果物、こちらのほうが特産品になろうかと思えます。それを使いましたジャムであったりといったような加工品、こういったものが特産物かなあと。こういったところをいろいろやとられる事業者さんがおられますので、そういったところと連携しまして特産品のPRに努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） この本題は観光物産イベントについてというところで、地域特産品云々どうのこうのというお話ではないものですから、あまり時間を割いてそのところに掘り下げてお話をすることはちょっと皆様方の御迷惑にもなるので控えたいと思えますけども、私が申し上げてるのは、そのジャムが重いんで手土産にならないんですね。やっぱり赤磐の名前のついたこれだという何か手土産になるようなものっていうものが行政のほうとして民間主導でやるのであれば何らかのお手伝いを、民間開発のお手伝いをして、そういったようなものが出来上がってこそこのこういう観光物産イベントじゃないかなというふうに私思うんですが、そこら辺の認識というか、視点といたしますか、温度感というのは、私とどうですかね。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 佐々木委員御指摘のいろいろな手土産になるような商品、こういったものを事業者さんなんかと一緒に考えていけたらなあというふうに思います。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 新拠点整備に関わる河本、岩田地区の地元説明会の開催についてということで、これまで説明会に行っておられないということでもよろしいんですかね。

それから、新拠点エリアについて生活利便ゾーンとか、公共ゾーンとか、産業振興・にぎわいゾーンとかというようなことで分けておられるんですけど、私の認識は商業施設ゾーンということ言い方として考えておったんですけど、こういうゾーンを3つに分けられておるといことの新たにそういうにゾーンづくりをされたといことの考え方について説明をいただきたいということと、生活利便ゾーンは何をするんならと、公共ゾーンは何をするんならと、産業振興・にぎわいゾーンは何をするのかといことについての説明をいただけるのであれば説明をしていただきたいと、そういうふうに思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） ただいまの御質問についてですけれども、まずゾーニングについてですけれども、これはあくまでイメージでございまして、まだ地元の方等にはこういったことも御説明をしておりませんし、協議会のほうでもこういった話は出しておりません。あくまでイメージということで、こういった形で御意見をお伺いをしていこうと思っております。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、イメージを我々の委員会の中に資料として提案をすることは言語道断じゃないんですか、これ。こういうふうな計画があるんでそういう説明をさせていただきたいということで資料を出していただかなければ、イメージ、イメージ言うて、イメージを我々のとこに提案されるということについては私はこれ言語道断だと思うんですけど、考え方が全然ないということですか。ないじゃあないんでしょう。ゾーンづくりをしとるということは、考え方があるからこのゾーンづくりをしとるじゃないんですか。違うんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） まず、先ほどの御質問で1点お答えできてなかったんですが、河本、岩田地区の説明会は、これは10月28日と30日、これからやるものになります。

それで、この資料は、その当日これを配布したいというふうに考えている資料になります。

イメージという言葉が少しあまりよろしくないのかもしれませんが、おっしゃられるように、先ほど言われた商業ゾーンという言葉がありましたけど、商業のゾーンというのが、ちょっと商業という言葉では書いておりませんが、この産業振興・にぎわいゾーン、ここがいわゆる企業を誘致したりですとか、商業を張りつける、そういうゾーンを中心部から一番遠いところにまず配置しようと思ってます。

それで、公共ゾーン、ここは今の岩田長尾線がちょうど今整備してる横になりますけども、ここがインターチェンジとのアクセスも一番いい交差点になる部分、かつこのエリアの中心になりますので、この緑の公共ゾーン、ここを公共、いわゆる市のほうで、あわせて道の駅の部分については今県と協議中ですが、県、両者でこのゾーンをつくっていききたいというふうに考えています。

それから、生活利便ゾーンについては、今立地適正化協議会の中でこの赤磐市の中で不足しているような機能、子育てとか、高齢者とか、そういったところを次回の委員会でお出ししようと思ってるんですが、その不足しているような機能、それからあと住居系のいわゆる町、町みたいなイメージなんですけど、というものをこのゾーンに張りつけるということで今考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員、よろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 分かりました。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） この新拠点予定エリアの点々の点線の部分なんですけど、ちょっとあまりにも雑、今こんな感じで考えてましてっていう段階なのでこんな感じになってるんですけども、例えばこの点線の中の境目になるだろうなあとと思われるところには御商売していらっしゃる方があったりして、点線の向こうとこっちは全然御商売の質が変わったりするようなこともあったりするので、こういう示し方ではなくてちゃんと地図の道路に落とし込んだような形で分かりやすいものをいただけるといいなあと。そういうものを作ってくれれば、例えば道路のこっちにこのお店さんがあるんだけど、道のこっちは同じ業種をやっているってゾーンの中に入って、道のこっちに入っていない同種同業の方がちょっと御苦労されるんじゃないですかとか、もうちょっと考えたほうがいいんじゃないですかというような、多分

意見が皆さんのほうから出やすくなると思いますので、道路で区切っていただくものを御用意
いただきたいと、委員長、思ってるんですが、資料請求よろしく願いできますでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 佐々木委員、まだ買収の問題だとかいろいろなことがこれから先いろ
いろあったり、それから地域で線を引いてしまうと、今おっしゃられたようなことで逆にトラ
ブルを招くようなことがあると思うので、計画は多分持つとられると思いますけど、そのトラ
ブルの起きないようなことを配慮した中で出せれる時期に出していただくということで、資料
を当然出していただくということじゃないと……。

○委員（佐々木雄司君） そうですね。

○委員長（金谷文則君） うん、問題が起きたらいけないので、その辺のところは御理解をい
ただいたほうがいいのかなくなって思いますんで、そのときにはよろしく願いしたいと思いま
す。よろしいでしょうか。

○委員（佐々木雄司君） はい、大丈夫です。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） じゃあ、1時間過ぎてますけど、続いて最後のこのその他のその他
ぐらい行きたいと思いますが、よろしいですか、皆さん。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、ほかに質問、質疑等がないようでございますので、協議
事項の2番目のその他は終了したいと思います。

その最後にその他のその他ということで、委員さん、それから執行部のほうから何かござい
ましたら御発言をお願いをいたします。

よろしいですか。

執行部、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 委員の皆さんいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） よろしいですね。

それでは、先ほどちょっと話がありました勉強会についての日程調整は委員長のほうに一任
いただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 委員会の後にやるというでもなかなか難しいかと思うんで、ひょっ
と空いてるところで別の日を設定したいと思いますので、御了解ください。

それでは、他にないようでございますので、以上をもちまして産業建設常任委員会を閉会と
したいと思います。

御苦労さまでございました。

午前10時5分 閉会